帰国報告

香港日本人学校での実践

前香港日本人学校中学部（H13～H15）
北見市立高栄中学校　小野寺哲浩

私の感じた香港

・電車　降りる人乗る人が同時に動く。　赤ちゃん連れや老人に優しい。　５～６人が席を立つことがある。
・アマさん（ヘルパーさん）　が荷物を持つ。子供が自分の荷物を持たない。夫婦共働きで子供はアマさんに預けるという傾向もあると聞く。
・街角の陰湿性がない。危ない集団がいない。夜でもやや安全。殺人が少ない。
・警官が多い。（資格を取れば民間人でも拳銃を所持し制服を着て仕事ができる。）
・ゴミ箱が多い。ビニール袋交換・上の灰皿の清掃　　掃除をしている。日本はごみが少ない→ゴミ箱が少ない→ごみの持ち帰り（自己責任）が徹底してきている。ゴミ拾い運動がいろいろな団体でなされている。道路の周りのゴミが減っているようなイメージがある。捨てる人が少なくなったのか，それとも拾う人が増えたのか。
・自転車に乗る人が少ない。山が多く，（香港島のほとんどが山）急な坂が多い。
・マイカーを持っている人が少ない。税金が 100%かかる。１００万円の車が２００万円。
バス・タクシーが安い（タクシーは初乗り２３０円ほど）タクシーの免許が取りやすい。タクシー燃料のガスも安い。バス路線はかなり細かく，頻繁に回っている。小型バスも多い。人口密度が高く道路が狭い為，交通量を少なくする政策。

言語

言語の中心は広東語であるが,たいていのところで英語が通じるのは，１９９７年の７月１日の返還式典以前はイギリス統治にあったことと，国際都市香港だけに英語を学習することは将来高収入の職業に就くことと，香港以外の外国に行ってビジネスチャンスを広げることを意味する。実際，街角で中学生や高校生に話しかけても流暢な英語で帰ってくることが多かった。しかし，タクシーの運転手は英語がまったく通じない人もいる。最近では，中国本土との文化的・社会的交流が解禁となり，北京語を話す人が多い。

人種

香港の人口６００万人。９５％が中国人（広東省出身が圧倒的に多い。）で６割以上が香港生まれといわれている。残り５％はフィリピン人（１３，０００人），アメリカ人（３２，０００人），カナダ人（２６，０００人），タイ人（２５，０００人），イギリス人（２４，０００人），インドネシア人（２２，０００人）インド人（２０，０００人），日本人（２５，０００人）である。

香港の路面電車　トラム

返還式典が行われた
コンベンションセンター

街のネオン

香港の教育制度

香港の学校は９月に新学期が始まり，２学期制をとっている。幼稚園の後，小学校が６年間，中学校が５年間，大学予科２年間，（または１年間），大学３年間（または４年間）というのが一般的である。さらにその先に大学院に進むこともできる。試験偏重の傾向は日本よりも強く，私立小学校でも学期末試験で６０点以下だと落第となる。小学校は午前組と午後組に分かれている。小学校卒業時には校内成績，学力検査や本人の希望，学区によって教育署が行うＳＳＰＡという統一学力テストによって中学校が決定する。中学校は卒業試験のほかに HONG KONG EDUCATION AUTHORITY が施する HKCEE(中等教育検定試験)を受ける資格が与えられる。中国語，英語，数学の３教科を含む５教科に合格すれば大学予科である FORM６や理工学院に進むことができる。香港ではこの HKCEE に合格していないと政府や大会社への就職が厳しい。また，義務教育の年限である FORM３に合格しないと FORM４には進めず，そこで淘汰された子供たちは学業を離れ働くケースが多い。中学校の授業では，広東語で授業を行う学校とほとんど英語で授業を行う学校がある。しかし，返還後は北京語の教育が進められ，英語で学習を進める学校を制限する政策もとられた。

中学部から見える夜景

香港の概略と歴史

毎年１２０万人あまりの邦人が香港を訪れ，長期滞在者も多い。香港には日本製品や日本食といった日本の文化があふれている。今，香港は日本ブームであるため，日本人の考え方や生活様式が注目を集めている。

香港の位置

香港は北緯２２度１７分，東経１４度１０分に位置する。北回帰線のすぐ南側にあり亜熱帯モンスーン気候である。年平均気温は約２３度，年間降水量２３００mmで，夏は湿度が高く冬は最低気温が１２～１３度まで下がる。香港とは香港島だけではない，中国大陸にあり中国との国境に隣接する新界，半島として突き出した九龍，そしてその南にある香港島とたくさんの島々で成り立っている。

香港の歴史

香港の歴史における日本の位置づけは，２０世紀に入り香港はイギリスの手から離れ，1945 年８月１５日までの３年８ヶ月間，日本の占領下におかれた。この事実は日本ではあまり知られていないように思う。日本軍は真珠湾攻撃と時を同じくして，1941 年１２月８日，香港侵略を開始した。香港は天然の良港であると同時に，戦時には重要な拠点になるためである。この間の香港の人口は急激に減少した。これは日本軍人による虐待，経済の破綻，食糧難などの過酷な生活をしいられた為である。1945 年８月１５日，日本の敗戦によって再びイギリスの植民地となり，香港では今もその日を記念し，８月の最終月曜日を「香港開放記念日」として祝い，土・日曜日をあわせて３連休を実施している。今日の香港は，日本人観光客にあふれ，日本語が通じる店があるなど，表面的には対日感情などないように見える。しかし，香港人の中に根強い反日感情があるのも事実である。旅行者として訪れるのであっても私達が香港の人達に犯した過去の残虐な事実を認識し，決して忘れてはならないことであると考える。したがって，現地の人に対する言動には留意することが大切である。

香港日本人学校の概略

香港では中学部のほかに，
小学部香港校（２４学級，１，４３５人）
と小学部大埔校（２０学級，５５７人）
があり，小学部大埔校には
国際学級（１２５名）が併設されている。

香港日本人学校中学部校舎

学校の概要

・面積　２９７５㎡
・校舎　８階建て（職員室５階）グラウンドはない。体育館の他，バスケットボール，ミニサッカーができるコートがある。体育大会はバスで出かけ練習,本番を行う。
・教員数　　校長，教頭，養護教諭をあわせて２６名　英会話講師７名
・生徒数　１クラス３０名前後　１年生　５クラス，２年生４クラス，３年生　３クラス
・　学校行事　５月・10 月学力確認期間　６月合唱発表会　７月・１２月教育相談　９月２年生修学旅行　１０月体育大会　１２月１年生宿泊学習　１月百人一首大会

修学旅行　万里の長城

ＳＡＲＳの頃　常にマスク

現地理解教育

小学部では,年に何度も香港各地の公園や施設を訪れ現地理解教育を実践している。中学部では，週２回の外国人による英会話授業の他,一学年が１～２度他校との交流会を持ち,出し物を発表しあったり,ゲームをして交流している。毎月２回の広東語タイムで基本的な広東語や教員が身近に見た「私の感じる香港」を紹介し合っている。

インター校との交流

部活動

バスケットボール部，サッカー部，卓球部,バレー部，広東語部，北京語部，お茶研究部，ブラスバンド部，香港研究部，エンターテイメント部，テニス部，バドミントン部などがあり，現地校との交流試合や香港大学の学生を招いての交流をしている。

カリキュラム

週休２日，毎日６時間授業。総合的な学習の時間，２・３年生での選択教科実施。

派遣教員として

日本人学校の役割・位置づけ

・教育の中心
・進路は世界各地であり，塾の情報量に保護者が頼っている。
・英語力，英会話はすばらしい。国語が苦手な生徒がいる。

・文化，伝統の継承・発信
・学校内外で起きる生徒指導面での問題行動について，理事会，保護者ともに「日本人社会の名誉を傷つける行為に対しての厳しい姿勢」を持っている。
・ SARS の対応では日本人学校が情報の発信源となり，退避・帰国の基準となることがあった。

派遣教員としての心構え

・「お酒を飲めますか?　よく飲む方ですか?」（文科省面接での質問）ＹＥＳｏｒＮＯどちらが良いのかわからないが，仲間と楽しくコミュニケーションを図ることができるか，ストレス解消法は何なのか，という確認であり，心構えを諭されたような気がした。
・「途中帰国しない」「日常の教育活動に疲れない」資質の重要性。積極的に仕事をする先生ばかりなので，各都道府県の優れた実践を全て取り入れようとすると学校がパンクしてしまう。
生徒の前に立ったときに気持ちに余裕があるような教師でいなければいけない。
・派遣されて何をしたいのか。（日本と同じ教育をする→経験させないと子供の為にならない）
（文化の違いの中での葛藤→正しいものは正しい→ひるまずやり遂げる）「日本なら当たりまえのこと」→「ここは外国だから価値観が違うんじゃないか？」→「え，やっぱり外国でもそうなの？」→「どこにいっても正しいことは正しいんだ」→「子供の成長にとって必要なものはやっぱり必要」

家族の体験

・語学を学ぶ＝他国の文化を学ぶことである。
・タクシーにて恐怖体験→家族が違う町に連れて行かれ，高額な料金を請求された。
・アイスホッケー→自分の特技を生かして，香港人，欧米人，日本企業の方々と交流できた。

職員室の雰囲気

・年齢が近い教師集団であり，何でも言い合えてレクリエーションができる雰囲気であった。
・指導力のある先生方ばかりで，様々な事象に対する理解・指導がスムーズに行える。
・仕事の仕方の違い～頻繁に教員が入れ替わる為会議が多く, 細部を確認しながら進める必要がある。短時間で効率よく処理することが求められる。取りまとめ役としての学年主任の在り方が重要。
・仕事が早い（見通しを持っている。）　期末試験を４月に作っている先生がいる。計画の緻密さ→実行する強さを感じた。

教頭先生の一言

「ここに集う人達は，旅先で出会った人達である」

教師と親，教師同士，親同士は，２度と会わないかもしれない人達同士である。みんながそのような意識で生活し，日本人学校にかかわっていることを理解しなければならないという事を教えられた。

香港での教育実践

重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳ）流行時における，感染予防のための緊急対応策について

①ＳＡＲＳについて
・ 病原体　　コロナウイルス
・ 感染経路　飛沫感染，経気道感染，空気感染など。
・ 潜伏期間　約１０日間
・ その他　　学校保健法施行規則第１９条第１号　第１種の伝染病と同様に取り扱う。

②対応策
・ 玄関にて体温チェックを行う。検温の結果，３７.２度以下ならば学校は受け入れてよい。
・ マスクは登校時から下校時まで着用する。
・ 校舎に入る前にアルコールペーパーを配布し，手指を拭く。

・ 私用物の貸し借りはしない。机・椅子・ロッカー・ドアのノブ・黒板消し・照明スイッチ等を消毒する。
・ 生徒にはゴミ箱のゴミを捨てさせない。

③まとめ

今回のＳＡＲＳの対応を通して多くのことを学ぶことができた。日常生活全般にわたっての健康・保健衛生等に対応と，緊急事態に対するマニュアル作成など教頭，養護教諭を中心に全職員で知恵を絞って対応にあたってきたが，保護者への協力依頼と啓発，学校行事での特別対応，国内待機生徒への情報提供など，想定されるあらゆる機会をとらえて準備をした。半年以上の対応と，それ以降に続いた感染防止の取り組みを振り返って感じたことは次の３点である。

（１） 情報整理とその活用

めまぐるしくとび込んでくる情報に対して的確な判断のもと整理し，取捨選択することはとても大変なことであった。また，学校が受信する側でなく，提供する側にもなる場合が多く，苦慮する場面も多かった。伝達する側としては信頼できる情報を絞り込み，受け手が誤解を招かないようにすることが大切であると感じた。

（２） 基本的生活習慣や行動様式の重要性

危機管理に対する様々な場面を想定しマニュアルを考えたが，全てのベースは平常時に培われた基本的生活習慣と行動様式であるということを痛感した。うがい，手洗いなども含め，学校内外の生活スタイルが感染に大きく影響する可能性がある。幸い，香港の日本人は誰一人として感染しなかった。香港社会の中では，「外靴を玄関で脱ぐ」「うがい・手洗いの習慣」など，日本人の生活スタイルを見直し取り入れていこうとする声があがっていた。

（３） 目に見えない目標設定と心労

生徒，職員，保護者の誰にとっても，目に見えない目標に向って努力することは，それが長期間にわたると心身の疲労が蓄積され，情緒も不安定になり，継続する上で困難を伴うことが理解できた。この度も，予防策として決定的なものがないまま学校としても各自の心がけによる対処療法を根気強く続けることしかなく，そう意味では展開が開けるまでの持久戦という様相が強く，実行に伴って生まれる不安やいらだちは計り知れないものがあった。これに対して心のケアの必要性が大きな課題として残った。

香港の中学校におけるＳＰＯＲＴＳＤＡＹ（運動会，陸上競技大会等の体育的行事）の調査

調査の動機

日本国内でも運動会・体育大会・陸上競技大会を実施していない学校があることを知り，自分が当たり前のように関わってきた体育的行事が香港でどのように運営されているのか非常に興味を持った。今回の調査では学校教育の中の体育的行事がでどのように位置づけられているのか，体育的行事を通じてどのような能力・態度を育成しようとしているのか，また，日本と香港の体育的行事を比較することで得られた発見をこれからの職務に役立てていきたいと考えた。

中華基金中学校　待機生徒

１　プログラム内容の特色

どの学校もオリンピック・世界陸上などの種目を基本にプログラムを組み，それに加えて学校独自の内容を加えている。短・中・長距離走，砲丸・ハンマー投，幅跳・高跳などのフィールド競技もある。宣基中学校最後の種目に他の学校を招いてのリレー競技があること。特に陸上競技大会等で優秀な学校に声をかけている。生徒・教師をミックスしたリレーと，生徒・保護者のミックスしたリレーもある。

２　係活動

・Chinese International School・宣基中学校

・中華基金中学校
　やはり，これだけ種目があると教員だけでは手が回らない。審判の補助や記録，用具の運搬などの係活動がある。自分自身が経験してきた運動会・体育大会と同様の活動形態であった。トイレにいくときや競技場の外に出るときに，係生徒よりチェックを受けるようになっていた。また，昔でいう「風紀委員」のような担当生徒がいて場内を巡回していた。

係活動の一場面

３　事前指導
・Chinese International School・宣基中学校
　香港の学校はグラウンドが狭いか無いに等しい状況にあるので，Sports Dayはほとんど観客席のあるスタジアムで行われる。これらの種目は放課後と体育の授業で練習しているものと聞いたが，競技を見る限り,競技場を借り切ってわずかな回数で練習し本番を迎えたことが予想できる。
・中華基金中学校
各色（各チーム）ごとにリーダーを決め，応援の内容を決め・掛け声等も各チームの特色が出ていた。

４　保護者の観戦
・Chinese International School
　平日の実施である為保護者の観戦はほとんどない。スタジアムのスケジュール表を見ても必ず平日にSpor s Dayが組み込まれている。香港では保護者は学校教育にあまり関わらないようで,学校のスタッフに聞いても「親が学校に行くときは，子供が悪いことをした時くらい」という話であった。
　保護者も参加するプログラムがあり，学校視察で訪問したときも当番で学校に来ていた保護者に応対してもらった。生徒の活動をより広く公開したくさんの人たちに理解してもらうような学校全体の姿勢を感じた。
・中華基金中学校　２日日程で２日目には保護者を招待している。

５　競技の特色
　３校ともGradeＡ，Ｂ，Ｃというような年齢別に分けて競技している。得点は１位～９点，２位～７点，３位～５点というように設定され,それぞれのGradeの標準タイムを突破するとボーナス点が獲得できるシステムになっている。
・中華基金中学校
　競技全体の様子であるが，集合・解散ともにきびきびとした動きが見られない。短い時間の中で効率よく競技運営していくという雰囲気が見られなかった。和やかといえばそうだがしまりや緊張感がなかった。全校を４色に分けてチーム対抗の形を取っている。（オレンジ，緑，赤，黄の４色。「４Houses」と呼んでいた。）当日になって競技のくわしい説明を受けていた。

各色に分かれての熱の入った応援

総括
　３校の調査に加え，学校スタッフに話を聞いていくと，体育的行事のねらいとしては，体力の向上・競技能力の向上に主眼がおかれているように思える。競技者や係生徒のきびきびとした集合・解散もなく，集団行動の育成という観点はねらいには含まれていないと考える。また,「たくさん練習して良いものを発表する」という趣旨もなく，何回か練習してきたことをその時エントリーしていた生徒で競技する，あるいは発表

するという内容に思える。いわば陸上記録会のような形である。

第１学年保健体育科実践報告

小野寺　哲浩

１．単元名

柔　道

２．単元設定の理由

○単元について

保健体育の目標は，心と体を一体としてとらえることを重視し，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現及び自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を培うことを目指しており，「積極的に運動に親しむ資質や能力の育成」，「健康の保持増進のための実践力の育成」，及び「体力の向上」の三つの具体的な目標が相互に密接し関連していることを示している。本校の教育目標にも体力の向上が一点目に掲げられ，日常生活において運動する機会が少ない生徒にとっては，体育的行事や体育の授業，休み時間の遊び場等が学校目標達成の機会となっている。特に，体育の授業は運動の苦手な生徒にとっても楽しみな時間である。本単元では，武道特有の礼節を重んじる態度を養いながら，柔道の技能の習得を通して体力の向上や柔軟性を高めていきたい。

武道に関する学習指導要領の内容は，①自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い，その技能を身に付け，相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。②伝統的な行動の仕方に留意して，互いに相手を尊重し，練習や試合の仕方を工夫することができるようにする。③自己の能力に適した技を習得するための練習や試合の仕方を工夫することができるようにするという三つがある。さらに，中学校保健体育の評価基準の中では，勝敗や結果を受け入れ，用具や服装，練習場などの安全を確かめたり，禁じ技を用いないなど，安全に留意して練習や試合をしようとする態度の育成も求められている。

○指導について

授業における指導については，柔道の特性を理解し，練習を行う上での心構えを身につけ，基本動作や，対人技能を身に付け，技能の程度に応じた練習や試合を楽しめるようにすることを重点としている。柔道の技は力だけではなく，足の移動や相手をくずす動きの中から重心の移動を利用して技を決められるようになると楽しさは倍増する。そのためにも，基本動作をしっかり身につけさせることが大切である。特に，「受け身」については，低い姿勢から中位（尊居，膝つき），高い姿勢（立位）へと相手との関連や組み合った動きの中で「受け身」を想定し，繰り返し練習し，段階的に習得させていかなければならない。安全面については，「礼に始まり礼に終わる」習慣を身につけさせ，「相手は自分の心技向上のための協力者」という相手を尊重する態度を育てていきたい。さらに，「瞑想」を授業のはじめと終わりに行うことで，授業の導入をよりスムーズにし，授業が終わり次の活動へ向かう心身の状態を作り上げるようにしたいと考えている。平成１３年度の保健体育科では，「保健体育の指導を通して国際性豊かな生徒の育成」を研修テーマとしている。手だてとしては，柔道の授業や体育大会でのダンスの中で日本の伝統的な要素を取り入れて指導し，校外学習における日本人としてのマナー等もテーマを達成する場面と位置付けている。さらに，国際理解教育の目標にある「自国文化理解」という点においても柔道の授業に期待する部分は大きい。柔道の学習にあたり歴史や意義，特性を十分理解させ，単に技能の習得に終わることなく，文化を継承し生活の中に取り入れ実践していく意識と態度を育てることをねらいとしたい。

○生徒の実態について

明るく和気藹々と活動する雰囲気があり，集合整列なども自分たちで声を掛け合ってよくできている。保健体育ノートの提出もほとんどの生徒が忘れないようになった。１学期に行われたバスケットボールの授業では，公正公平に試合を運営し楽しく活動する雰囲気があったが，礼儀や集団の秩序を保つ点では少し不十分である。一部ではあるが，興味や，関心のあることであっても，教師や，他人に依存することもあり，自ら進んで実践する姿勢の育成が今後の課題ともいえる。学習グループは４人一組で，２人一組になるときにはその４人で自由に相手を変え，毎回同じ相手とならないように工夫している。

３．単元目標

関心･意欲･態度　○柔道の特性に興味関心を持ち，進んで運動を楽しもうとする。
○互いに助け合い，励まし合い，助言し合って仲間を尊重し合うことができる。
○協力して準備片付けを行い，安全に注意して活動することができる。

思考･判断　○教師や友達に指導を受けたことを参考にして練習することができる。○正しい判断で練習や準備片付けができる。

技　能　○力強い受け身や多様な動きの中で受け身をとることができる。
○正確で素早く技をかけることができる。

知識・理解　○伝統的な行動の仕方を理解することができる。
○健康安全についての認識と安全な行動に関する理解ができる。

４．指導計画

第１時　オリエンテーション
第２時　柔道の特性と歴史
第３時　柔道特有の動きについて
第４時　受け身と寝技
第５時　受け身と寝技
第６時　受け身と寝技
第７時　投げ技の学習
第８時　寝技と投げ技の学習
第９時　寝技と投げ技の学習(本時)
第10時　投げ技の学習
第11時　実技テスト
第12時　試合

５．本時の指導

(1)日時　平成１３年１１月１４日(水曜日)　第１校時
(2)学級　第１学年４組　男子１３名　５組　男子１５名　合計２８名
場所　体育館
(3)題材　柔道
(4)目標　・寝技の定着を目指し，とき方の工夫，とかれない工夫をすることができる。
・投げ技の習得を目指し，投げる時の約束や投げられる時の受け身の取り方を体得することができる。
・協力し合って準備片付けを行い，安全に学習することができる。

(5)準備物　柔道着　保健体育ノート　図解中学体育（副教材）
(6)教科の研修テーマとの関わり
自国文化理解，日本人としてのマナー習得の過程を通して，国際性豊かな生徒の育成する。

(7)指導過程(展開)

過程	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点
導入	畳の準備 瞑想 挨拶 本時の説明 準備運動 補強運動	 挨拶の隊形になって安座する。 正座，瞑想，座礼 体育係の指示により ・準備運動，ランニング，柔軟体操 ・体操隊形に広がる ・腕立て10回，Ｖ字腹筋10秒，２人一組でのスクワット１０回 ・ほふく前進，えび	・授業開始10分以内に全員で行う。６５枚 ・列の整頓 ・正座と瞑想，座礼を正しい形で行う。 ・瞑想によって授業に集中して取り組む心身の状態を作る。 ・怪我につながらない正しい形で行う。
展開	受け身 寝技の練習　３０秒間×３ 寝技の復習 投げ技の習得 ① かかり練習 ② 約束練習	後ろ受け身，横受け身，前受け身，前回り受け身 １回目　背中あわせの長座から けさ固め，横四方固めのポイント説明 ２～３回目　向かい合って組み立ち膝から 大外刈りについてくずしの方向，体さばきを確認しながら練習する。特に，つり手と引き手をうまく使う。	・力強く正確に行う ・前回りは隊形を移動させる ・腕を首に回さない ・立ち上がらない ・４人グループの中で相手を変える。 ・集合隊形に整列する。 ・くずし→体さばき→掛けの動作を正確に身に着ける。 ・周りのスペース，安全を確認する。 ・引き手の確認 ・受身をしっかり取る

６．実践のまとめ

(1) 授業者の反省

１年生の段階の柔道では、基本的な技能の習得を通して体力の向上や柔軟性を高め，武道特有の礼節を学習し日常生活にも生かすことのできる礼儀作法の習得を目指してきた。また，互いに相手を尊重し，安全面に留意して練習や試合の仕方を工夫することや，勝敗や結果を受け入れ禁じ技を用いないなどの態度の面でも指導にも努めた。特に、技能の程度に応じた練習や試合を楽しめるようにするために，寝技の練習について工夫し，柔道の技は力だけではなく，重心の移動を利用して技を決めることができるという，柔道特有の面白さを体得させる為に２人一組のゲーム形式で行った。ゲーム開始時の姿勢を工夫し，その中で，「どうやったら相手を押さえ込むことができるのか」「どうやったら相手をくずすことができるのか」という意識が生徒の中に見られるようになってきた。また，基本動作をしっかり身につけさせるために，「受け身」については低い姿勢から中位，立位へと動きの中での「受け身」を想定し段階的に習得させるよう指導してきたが、細かい身体の動きや各部位の位置など、指導し切れずに終わったところがあり，決してよし指導ができたとは言えない。安全面については，「礼に始まり礼に終わる」習慣を身につけさせるために，「相手は自分の心技向上のための協力者」という意識を持たせるよう指導した。「瞑想」による開始，終了など，授業と休み時間のけじめをつけるという点と併せて安全面についての指導においては一定の成果が得られた。

今年度の保健体育科の研修テーマである「保健体育の指導を通して国際性豊かな生徒の育成」，国際理解教育の目標にある「自国文化理解」という点については，日本の伝統的な要素を取り入れ校外における日本人としてのマナー等も十分身につけることを目標に，今後も柔道の授業を通して歴史や意義，特性を十分理解させ，単純に技能の習得に終わることなく，文化を継承し生活の中に取り入れ実践していく意識と態度を育てることが系統的なカリィキュラムの中で課題であると考える。

(2) 反省会での意見等

- 体育係の活動にあわせて教師がどう補足し支援にあたるのかを明確にすること。
- 柔道で何を身につけさせるのかという点を指導要領などの目標から具体化し，年間指導計画の中でも他の単元と関連付けて明らかにしていく必要がある。
- 受け身では，相手に押してもらってから受身をするなど、より実践的な技能の修得を目指す必要がある。
- 受身の習熟度別の練習なども検討してはどうか。
- 本時の目標等を導入で話す時にも、何をするのかということではなく、何を目指すのかということを語りかけていくべきである。
- 生徒が手本を披露する時や，教師の話を聞くときの態度も武道にふさわしい態度ができるよう指導する必要がある。
- 個別指導をもっとしてもよいのではないか。本時のねらいに関して特に指導が必要な生徒を把握した上で、個別指導にあたるとより効果的な指導ができる。
- 導入時に，前時の授業の内容を確認し本時の内容と結びつけた上で生徒に目標を持たせるような説明があると良い。

(3) 今後の課題

- 体育係の活動にあわせて教師がどう補足し支援にあたるのか。
- 柔道で何を身につけさせるのかということを指導要領の目標や他の単元と関連付けて明らかにしていく。
- 受身では，相手に押してもらってから受身をするなど、受身に限らず技の習得に関してより実践的なイメージでの修得を目指したい。
- 生徒が手本を披露する時や，教師の話を聞くときの態度も武道にふさわしい態度ができるよう指導する。
- 個別指導の工夫。様々な場面において能力の違った生徒の把握に努め、「全体の中の個」，「個の集合が全体である」という意識で指導計画を組む必要がある。

７．生徒の感想

- 礼儀作法が身についた。
- 柔道が少し好きになった。
- 試合が面白かった。
- エビなどの柔道特有の動きが身についた。
- 柔道の技を覚えることができた。
- 体力がついた。
- 正座になれた。
- 準備・片付けが大変だった。